

# 山王遺跡千刈田地区出土 施釉陶磁器の概要

多賀城市埋蔵文化財調査センター 小原 駿平

## はじめに

多賀城南面に広がる方格地割のうち、北1西7区では、山王遺跡第9次調査（平成2年度・調査面積：約740m<sup>2</sup>、多賀城市教育委員会1991）及び同第18次調査（平成4年度・調査面積：200m<sup>2</sup>、多賀城市教育委員会1993）を実施している。同区画は、上記の調査において、四面廻付建物SB474を主殿とする掘立柱建物群を発見したほか、豊富な施釉陶磁器や「右大臣殿餞馬收文」題箋軸木簡（令和6年度国指定重要文化財「多賀城関連遺跡群出土木簡」）が出土したこと等により、平成5年度に特別史跡多賀城跡附寺跡に追加指定されている（「山王遺跡千刈田地区」）。

出土した施釉陶磁器については、概要報告書において一部の実測図を示したほか、宮城県教育委員会（1996）に出土数データを提供した経緯があり、古代土器・施釉陶器の研究史上（尾野2002・高橋2016等）において、緑釉陶器の出土が多い地区として評価されてきたものの、詳細については未提示となっていた。

本稿では現状の資料整理に基づき、改めて施釉陶磁器の概要を報告する。

## 1. 遺跡の概要

### （1）方格地割の概要

方格地割は、東西大路・南北大路二つの幹線道路を基準とした道路網によって、およそ120m四方の区画に造成されたものである。山王遺跡から近接する市川橋遺跡にかけて、多賀城と密接に関連する都市空間を形成している。

このうち東西大路の沿線区画に国司等の上級役人が、離れた区画に下級役人が住まいを構えたと考えられており、施釉陶磁器の多寡はその反映とされてきた。

道路名は東西大路から数えて南にx番目の東西道路を南x道路、南北大路から数えて西にy番目の南北道路を西y道路のように表記する。街区の名称についても同様に、東西大路から数えて南にx番目・南北大路から数えて西にy番目の区画を南x西y区のように表

記する（第1図）。

方格地割の変遷については、鈴木（2006）・武田（2010）・宮城県教育委員会（2018）等のほか、近年の発掘調査に基づく変遷案（多賀城市教育委員会2023）がある。変遷上の画期や、その歴史的背景等について、論者により細部に異同はあるものの、ここでは最後者の変遷案を以下に示す。

多賀城政府中軸線上における南北大路敷設の後、8世紀後半～末頃には東西大路の敷設・南北大路の拡幅・河川を直線的に改修した運河の造成が行われ、8世紀末～9世紀前葉頃には東西南北の小路の整備により方格地割が成立し、9世紀中葉～10世紀前葉頃には街区が拡大、縁辺部においても道路が敷設され、方格地割の範囲は最大となる。

その後10世紀後葉～11世紀前葉頃までの間に、各道路は維持されなくなり、方格地割は廃絶に至る。

### （2）北1西7区の概要

東西大路から数えて北に1番目・南北大路から数えて西に7番目の区画である（第1・3図）。

遺構期はA・B2時期に大別され、それぞれ2小期に分けられる。特に注目されるのが、B1期（10世紀前葉頃）の遺構群である。

四面廻付建物SB474のほか、割り抜き材を用いた井戸跡SE504や、宴会儀礼等に伴う土器の一括廃棄遺構SX543が構築される。

SB474は4時期（a～d）の変遷を確認しており、このうちc期掘方埋土に灰白色火山灰（To-a）が混入する。（※）

また、c期掘方埋土から、前述の「右大臣殿餞馬收文」題箋軸木簡が出土しており、同a～b期のいずれかの時期より、餞馬に関する一連の文書が保管されていたと考えられる。

※…当市では灰白色火山灰（To-a）について、払田柵跡外郭線の伐採年代や陸奥国分寺七重塔の焼土層との層位関係から907～934年の間とする考え（宮城県多賀城跡調査研究所1998）に従い、10世紀前葉と捉えている。

## 2. 北1西7区 施釉陶磁器概要

### (1) 組成 (第1表)

北1西7区では、第9次調査及び第18次調査で、破片総数306点が出土している。

緑釉陶器は83点出土している (第9次:69点・第18次:14点)。

器種組成の大部分を占めるのが壺(68点、81.9%)であり、他に皿、三足盤、段皿、稜壺、耳皿等があるが、いずれも破片数1~4点程度である。

底部が残存する壺・皿類では大部分が東海西部・尾張産(貼付高台)とみられるが、一部に畿内産(削出高台、第2図-1等)が含まれる。

灰釉陶器は214点出土している (第9次:195点・第18次:19点)。

器種組成の大部分を占めるのが壺(184点、86%)であり、瓶類や段皿、手付瓶、耳皿等を一定量(2~8点)含む。底部が残存する壺・皿では、大部分が東海西部・尾張産とみられるが、東濃産が2割程度含まれる。

青磁は4点出土している (第9次:4点)。第2図-10は水注である。胴部は瓜形に整形されており、釉下に白色の化粧土が施されている。

白磁は4点出土している (第9次:4点)。器種はいずれも碗で、玉縁口縁のものが含まれる。

褐釉陶器は1点出土している (第9次:1点)。瓶類の口縁部とみられる (第2図-3)

### (2) 出土状況及び所見(第2表・第3図)

出土した施釉陶磁器の大部分が、調査区内基本層からのものであり、そのうちB期建物造成時の整地層(第4層)出土のものが10点、B期の遺構を覆う第3層のものが112点である。

遺構からの出土数は、掘立柱建物に伴う柱穴からのものが多い。建物配置や規模から北1西7区の主殿とみられる四面廂付建物S B 474では、緑釉陶器の出土量が灰釉陶器の出土量を上回る。

また、最上層に灰白色火山灰(To-a)が自然堆積する土坑SK501で26点の灰釉陶器が出土している。

その他、青磁水注(第2図-10)は、宴会儀礼等に伴う土器の一括廃棄遺構S X543から出土している。

調査面積100m<sup>2</sup>あたりの出土数は32.55点(内緑釉陶器8.8点、灰釉陶器22.8点)である。山王遺跡多賀前地区における100m<sup>2</sup>あたりの出土数と比較すると、北1西3区で4.19点、南1西2区で9.05点、南2西1区で0.23点であり(宮城県多賀城跡調査研究所2020)、方格地割内においても突出した出土量であることが分かる。

また、総数306点に対して緑釉陶器の割合は約27.1%を占めている。20%以上を占める遺跡は国府やその関連遺跡に多いことが指摘されており(高橋1994)、区画内の性格を反映したものと考えられる。

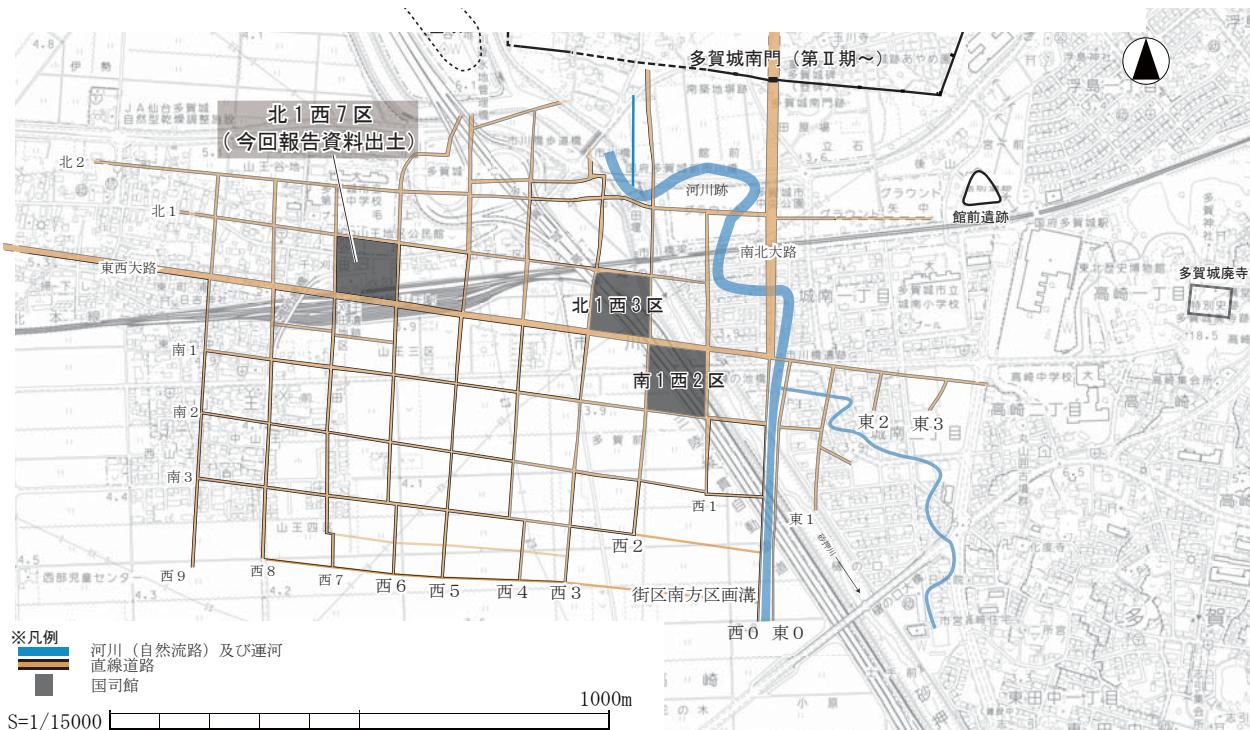
### おわりに

今回の報告では、多賀城市埋蔵文化財調査センターによる過年度調査資料再整理に基づき、北1西7区における施釉陶磁器の器種・出土量・出土状況についての概要を示した。

产地・時期等の詳細な検討については、今後の課題である。

### 引用・参考文献

- 尾野善裕 2002「平安時代における緑釉陶器の生産・流通と消費」『国立歴史民俗博物館研究報告』第92集 pp.35-57
- 鈴木孝行 2006「多賀城外の方格地割」『第32回城柵官衙遺跡検討会資料集』pp.86-97
- 高橋照彦 1994「東国の施釉陶器」『古代の土器研究—施釉陶器—』古代の土器研究会第3回シンポジウム pp.19-26
- 高橋照彦 2016「都と地方の土器」『官衙・集落と土器1』第18回古代官衙・集落研究会報告書 pp.11-26
- 多賀城市教育委員会 1991『山王遺跡—第9次発掘調査報告書—』多賀城市文化財調査報告書第26集
- 多賀城市教育委員会 1993『山王千刈田遺跡—関連調査報告書—』多賀城市文化財調査報告書第34集
- 多賀城市教育委員会 2023『多賀城地区ほ場整備事業に係る発掘調査報告書』多賀城市文化財調査報告書第157集
- 武田健市 2010「多賀城廃寺と多賀城南面の様子」『第36回城柵官衙遺跡検討会資料集』pp.115-134
- 宮城県教育委員会 1996『山王遺跡IV』宮城県文化財調査報告書第171集
- 宮城県教育委員会 2018『山王遺跡VII』宮城県文化財調査報告書第246集
- 宮城県多賀城跡調査研究所 1998『宮城県多賀城跡調査研究所年報1997』
- 宮城県多賀城跡調査研究所 2020『多賀城施釉陶磁器』



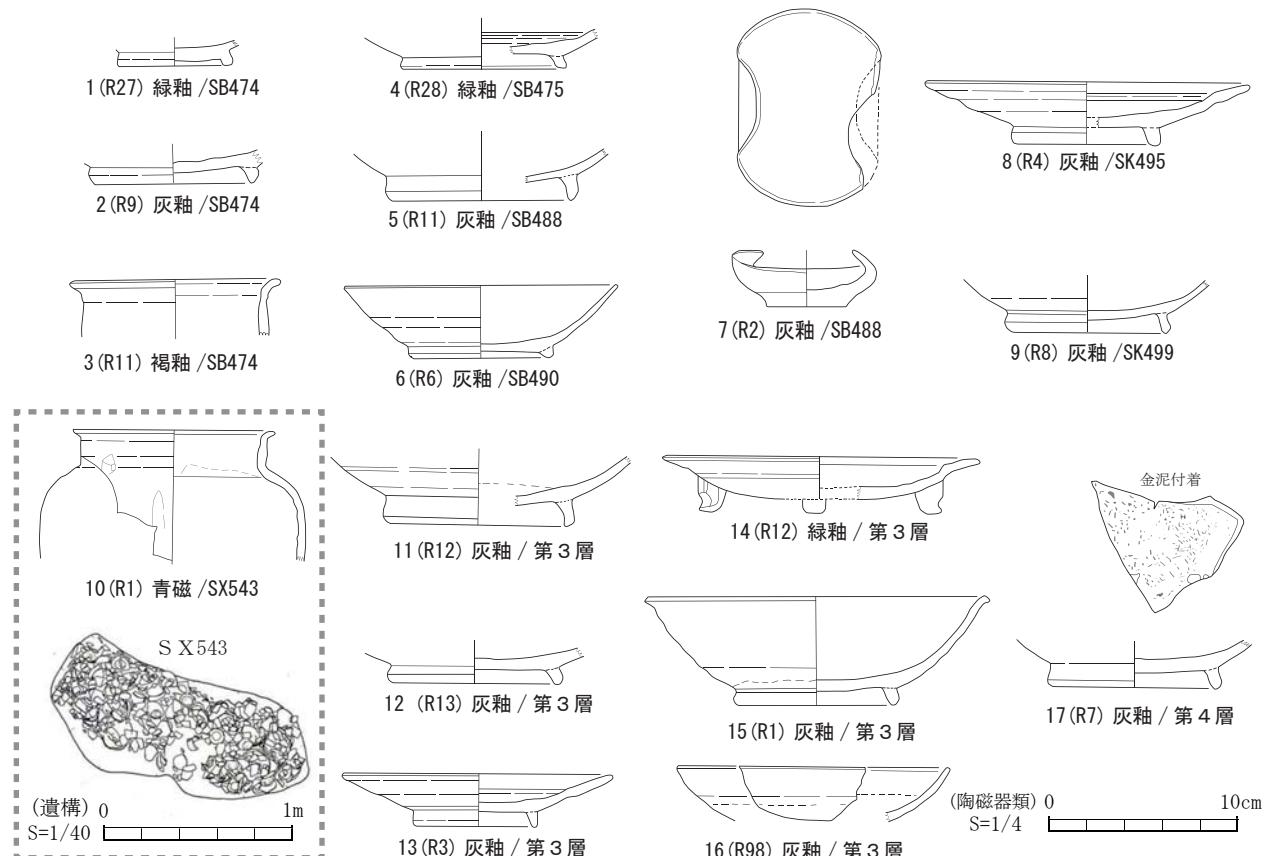
第1図 多賀城南面の方格地割と北1西7区

第1表 北1西7区 施釉陶磁器 器種別集計表

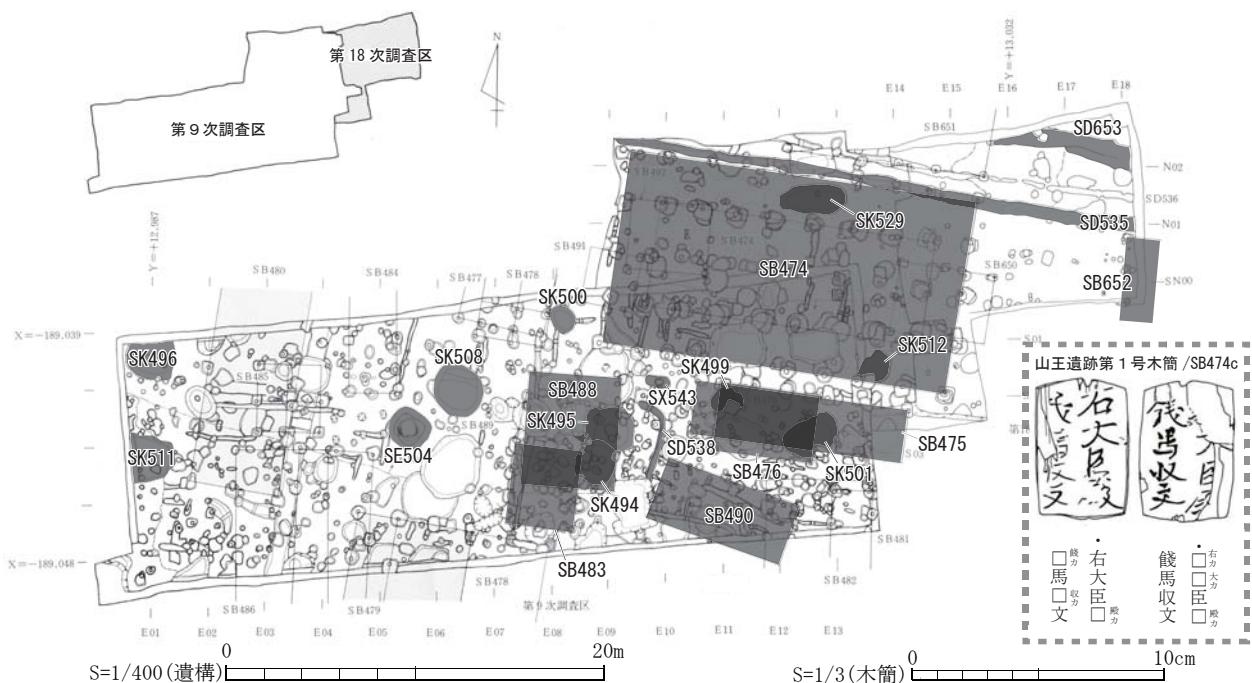
種類	緑釉陶器		灰釉陶器		青磁	白磁	褐釉	合計	
	点数	割合 (%)	点数	割合 (%)	点数	点数	点数	点数	
器種	塊・碗	68	81.9	184	86	3	4	-	259
	皿	3	3.6	3	1.4	-	-	-	6
	段皿	1	1.2	8	3.7	-	-	-	9
	三足盤	4	4.8	-	-	-	-	-	4
	長頸瓶	-	-	3	1.4	-	-	-	3
	小瓶	1	1.2	1	0.5	-	-	-	2
	瓶	-	-	10	4.1	-	-	1	11
	手付瓶	-	-	2	0.9	-	-	-	2
	壺	-	-	-	-	-	-	-	0
	耳皿	1	1.2	2	0.9	-	-	-	3
	水注	-	-	-	-	1	-	-	1
	その他	5	6	1	0.5	-	-	-	6
合計		83		214		4	4	1	306

第2表 北1西7区 施釉陶磁器 出土遺構別集計表

掘立柱 建物跡	SB474	31	緑19, 灰10, 褐1, 白1	土坑	SK208	1	灰1	溝跡	SD535	1	灰1
	SB475	2	緑1, 灰1		SK494	2	灰2		SD538	2	灰2
	SB476	1	灰1		SK495	5	緑2, 灰3		SD653	2	灰2
	SB483	1	緑1		SK496	4	灰4		計	5	灰5
	SB488	1	灰1		SK499	8	灰8		第1層	13	緑8, 灰5
	SB490	2	緑1, 灰1		SK500	1	灰1		第2層	44	緑17, 灰27
	SB652	1	青1		SK501	26	灰26		第3層	112	緑24, 灰84, 青2, 白2
	その他柱穴	15	緑4, 灰10, 白1		SK508	1	灰1		第4層	10	灰10
	計	54	緑26, 灰24, 青1, 白2, 褐1		SK511	1	灰1		計	179	緑49, 灰126, 青2, 白2
井戸跡	SE504	3	緑1, 灰2		SK512	10	緑4, 灰6		その他	2	緑1, 灰1
	計	3	緑1, 灰2		SK529	1	灰1		不明	2	灰2
総計		306			SX543	1	青1		計	4	緑1, 灰3
緑…緑釉陶器 灰…灰釉陶器 青…青磁 白…白磁 褐…褐釉陶器											



第2図 北1西7区出土の施釉陶磁器



第3図 北1西7区における施釉陶磁器出土遺構